

PRESS CLIPPING

PUBLICATION 媒体名： 日本印刷新聞
DATE OF ISSUE 発行日： 平成22年11月29日

ベルアドワイズ

広告・販促資材の販売、POPの企画制作を手がける(株)ベルアドワイズ(本社・愛知県名古屋市長、小森弘道社長)はエコプロダクツ2010に環境対応型ステンボード「エコノラック」を出展する。

中部地区で40%のシェア誇る

同社は、2005年(株)ベル春日井(現(株)ベルマネジメントワイズ)から分社化し設立。ベル春日井は1970年に設立、ディスプレイ用パネルや断熱材などの広告関連資材事業を開始し、1990年代から札幌や東京、大阪、福岡にオフィスを開設、全国に事業を展開している。

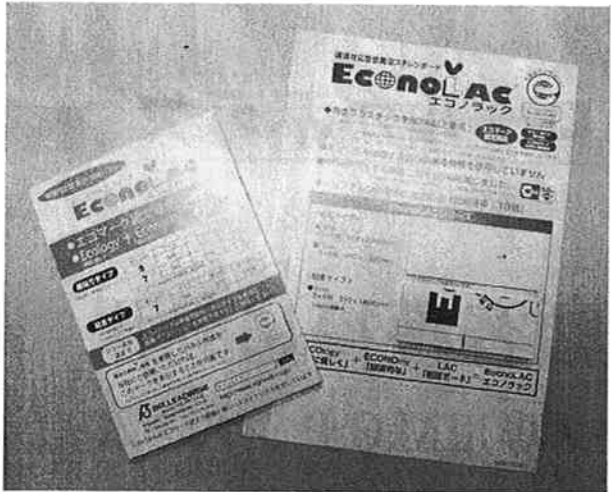
会社分割後、ベルアドワイズは2008年に旭トレーディング(株)と合併し、広告・販促資材の企画、販売体制の充実を図るとともに、中国など海外ビジネス展開も加速させている。また、広告・販促資材市場において、中部地区で約40%のシェアを誇り、全国でも約10%の販売シェアを持つ(同社推定)。

同社は多言語表示が可能なパネルスタンド、サイン・POP広告企画・サイン作成、コンピューターサイン作成、システム販売など、多様な商品、サービスを提供しており、今回の出展では「エコノラック」を中心に展開する。

出展に際し東日本営業グループマネージャーの野崎健氏は「昨年のエコプロや、今年開催されたメッセナゴヤでも企業のCSR部署の方



野崎氏



パネル表面にエコマークを表示できる「エコノラック」

印刷面にエコマーク表示 環境対応「エコノラック」

面にポスターを貼ったり、印刷する場合、表面上他社製品の差別化が図れないことが問題であった。広告面の裏にエコマークを入れているが、それだけでは訴求性には欠ける。そこでエコ認定マークを表面につけることができるよう、認可を得ることで、現在は当社独自のサービスとして展開している(野崎氏)。

「エコノラック」は芯材に再生プラスチックを60%以上使用し、重金属など有害な物質を破壊する恐れのある有害化学物質を使用せず、製造工程におけるCO₂排出量を約50%削減することで粘着・紙張ステンボードとしてエコマークを取得している。再生素材を使用しながらも、従来品と同等の価格帯と品質、加工性を実現し、環境に優しく経済的でもある製品だ。

同社は「エコノラック」開発に際し原料確保の独自ルートを開拓、再生原料の回収から、原料の粉砕、再製品化、固形燃料化によるサーマルリサイクルに至るまで、再生材を使用した循環型の安定したエコ生産体制を実現している。

広告面の印刷に関してはUVインクジェット印刷を利用し、環境に配慮。広告・販促物に対しても高まりつつあるエコニーズに対応する。また、今回のエコプロダクツ2010でも、「エコノラック」を会場内の案内パネルなどに利用する協議、検討が進められている。

広告・販促資材をエコへ転換

環境対応への取り組みについて野崎氏は次のように語る。

「ベルマネジメントワイズを中心としたベルグループは、『ベルグループ環境宣言』として、グループ一体となって、地球環境の保全が全人類共通の重要課題の一つであることを認識し、環境負担の軽減活動を推進することを宣言している。当社が扱う広告・販促資材は塩などを含み、エコからは縁遠い存在だ。そこからエコへ転換する商品を開発することは困難ではあるが、国内、海外含め技術開発については研究を進めている。

当社は『エコノラック』のほかにも、LEDポスターパネルなど従来の蛍光灯からLEDへの移行を進めるLED関連商品なども開発している。こうしたエコ商材の開発を今後も継続し、循環型社会へ貢献していきたい。」